



經後御記

改元正嘉  
康元二年  
三月  
四日

14  
2478  
23



14  
2478  
卷 23



康元二年三月七日

雅言 卷

别府卿 點定物事



作點定物不日被返个靜言志二被在直也

内裏可申座主官

朝妻庄榜示立

仰御河法未斷言可付奉初切中先及后

下了自由押妨不之然由重可仰雅平胡卡

良野卿地頭 法事

仰河注記在園東上可相待成散

分甲午全平 大歲前小歲 拜官者 日遊在內

天晴大歲御出功大事 向今日即出家了聖

大歲御出家事 護院僧正為戒師

*隱事出...*

九兒未金定 大歲前小歲對血忌復 裁衣者 日遊在內

*隱事出...*

某年三月十日 葬



十日丙申火執 沐浴 大歲前小歲對 解除者 日遊在內

天晴早旦二條馬丸有炎上仍作系衣內裏

二條馬丸有炎上 火已消了 撤下御程准入見急次春院御留侍

帝院御祈 間之依卷上自鏡 撤入御次退出

依卷上自鏡 撤入御

*隱事出...*

十日丁酉火破沐浴伊豫内大歳前小歳對殿日遊在內療病去

天晴參院了改元公心事又退朝上指卷中入

下親經又出可合許之又系之申公初下几燈

茂祭隨身中宮物曹久剛府生久賴近清

使將曹府生賴澄等但座次可相傳由此作又築

可知由早之御教書已

今日為花御覽 御幸北山了

十日戌戌木先大歳前小歳後无翹月致日遊在內

十三日己亥木成沐浴大歳前重婚去日遊在內

兩降参院稻為祭使了社烈参前中作先之著定

座主宮改五十八人内由之作成後念き初事先止

菊時狼籍女子細可進院日文由之作 又有京申

三ヶ任事可合評定由被作氏成急家作之宣下

又和泉國下可與幼子請文入見系又改元例子依御

慎系大子波改由可作職事并官等卷子傳卷

康元二年三月十三日宣

奏

尊勝院陀羅尼供養事

題名僧內隆助法事

可參 由右神妙

公卿改上人敬快事

心敬快經拜覽了改上人俄下子細案不可然

徒然之令氣位不終志定有後悔死由右可作也

街道寺師休祈事

作相儲  
慢事

尊勝寺領吉田保祈事

仰於快越此拜難志但道理可尋河法由之作也

平野食物依右悉門尉清原胤昌事

早可被 宣下

十日 兩降表院奏改元公卿敬快并祈事

例事年号字了者其何法 稻為使了

可著 日吉社人後事由 社家祈也

自度之彼放金五十八人內於之著之被仰

資定期后定補事了系事傳奏系見奧

今日長講堂 御八講結願之仍有心之免者事

賞定事功長講堂御八講結願者所奉 次系内年号勅文等有心不重仍

内尋新書字以同進介次系九府任之

被奉年号勅文三通武部大補光兼以文章博士在景 朝臣同信房朝臣等

一懸紙結中今二通 勅解由少路中納之 或幼權大権之直付予

十四日天晴早且先系取下為内覽勅文也

依石系御前 沙古之說與人付予勅文也

開封御前 返下之又中云御 敬状以右院奉勅文

婦少路中納言禮儀御前年号字事内之有之河清本

心不置于難事多々正嘉無 子之由有

頃之取下御系無御對面改元定之先以令

中快可養然心及深更神及面定奉中

其後之同一中臨不養聞且之作之由取下令

中給有由身之有由法之自有勅定取取下

中系内系白地退出兼燭之程系内取下自元

有由程儀之問左大臣右大臣中宮大夫指

御門新大納言通新 新大納言御前 勅解由

中納言 元山院中納言通雅 婦少路中納言 長朝

左束見猪

右宰相

親頼

右宰相中將

伊頼

平宰相

時継

著使座予記載下勅文上右府

五通第一徳紙  
結中

左府被結中一通予作之定申次退入勅文

次第見中平宰相先見勅文次取笏氣色

一上随司中

先丁讀中何由中上先の  
讀中文章博士勅文由右御倉由讀之次讀

次身定申自下爲定中也

左大臣

正嘉

右大臣

正嘉

中宮大夫

元應  
大永

左御門勅大納言

正嘉  
寛正

右御門勅大納言

正嘉

勅解由中納言

正嘉

礼山院中納言

文永

御少政中納言

正嘉

左衛門將

建治  
文永

右宰相

正嘉  
正安

右宰相中將

正嘉  
正安

平宰相

建治

各定申上以官人百予云系載全之申

申作人次第又申次予於南殿御後申殿

下御大略正嘉以之於一箇一箇

之御其後之奏由御作予就轉御告先府見

御少若之申雖由有識此言予信之兼識定

趣由有上宣仍從催載定建治始由中納言

申保元之後改平治及治字出事

亦似彼例之如於強之其上見如去之雖

有しん人、同し次、而安引文上、句踏花、し有  
し、看、得ん、左、悉、待、申、し、次、寛、正、の、字、在、下、し  
例、本、朝、未、出、来、漢、字、し、例、若、不、快、之、由、有、由  
此、次、元、應、文、應、字、近、例、不、快、之、次、文、永、引、文  
混、武、與、文、句、頗、其、骨、之、う、し、難、し、文

在、上、し、例、文、曆、永、在、下、し、例、貞、永、南、字、を、例  
若、不、快、之、正、嘉、の、字、我、朝、在、下、し、例、本、出、来、漢  
家、の、例、吉、凶、文、但、仁、明、御、諱、字、訓、讀、お、通、し  
由、中、官、大、史、申、し、訓、讀、お、通、し、定、有、由、ん

只、今、不、覚、悟、し、由、ん、し、終、し、貞、觀、 御、諱  
お、通、し、由、婦、少、路、中、納、之、中、し、一、上、し、貞、觀、者  
字、多、し、前、の、し、中、納、之、白、貞、觀、臨、お、後、御、諱、沙  
法、の、時、為、年、号、し、の、を、避、之、し、由、有、由、法、之、九、符、に  
し、云、御、諱、漢、家、有、其、何、し、文、永、者、統、本、文、者  
行、豫、之、正、嘉、お、通、御、諱、字、の、を、避、之、し、正、嘉、文  
永、の、間、の、を、定、之、し、由、可、奉、し、由、有、識、定、通、御、諱  
字、の、人、の、を、看、豫、難、し、由、申、し、予、即、察、院  
卷、御、前、先、卷、人、の、舉、や、し、号、等、次、一、同、加



雖一紙中一 勅定之 御講字 於通一事  
亦有苦乞 年号 訓不諳之 必之 類定有  
先例乞之 同正嘉之 由是作中 以是事之 云今及  
年例之 作依事之 由之 宣下而 火子內  
過大極改之 亦改元 亦作于 年例 若教之  
先例 改元 亦作 其年 何必 不裁 皮例 由大內 託  
并大內 託師光 等申之 代始 亦作 例是 依此  
教之 改嘉 應為 承安 之 及依 御慎 亦改之 今  
度又 依大 亦再 以慎 之 亦作 承安 例 亦之 宣中

師光申之 一何 極亦 作之 承安 例之 宣中 作之  
中 亦御 卷內 裏之 中一 勅定 之 依申 改下 亦之 作之  
亦作 次然 執作 左府 之 改康 元二 季之 為正 嘉  
元年 依火 事亦 以慎 改元 但承 安之 例亦 依此 作事  
次左 府之 大內 託之 長 依之 事 左府 退出  
中 亦大 吏移 着端 應之 先是 右府 以下 退出  
上之 就弓 場亦 奏之 詔亦 草亦 志內 覽此 間  
亦之 奏盤 以內 評奏 例亦 返下 亦上 卿為 著  
依 歷次 亦奏 清書 然亦 場因 奏亦 亦不 之

奏開如加畫日十... 次退下... 上卿下中務少  
浦范長... 次石右... 權佐賴親作教令...  
予准改上方... 台不見其儀... 次改下退下直廳  
申... 官... 人方吉書... 人太補高... 中... 先官  
方左中... 宗雅... 內... 千... 依... 例... 予... 人  
方吉書 降時之用 內... 儀... 初... 高... 補... 覽... 以  
奏... 主上先出... 御... 畫... 御... 府... 左... 右  
供常燈... 次... 尤... 中... 年... 先... 奏... 官... 方... 吉... 事... 杖... 蓋... 左... 御  
障子... 傍... 出... 上... 戶... 中... 年... 中... 約... 子... 西... 南... 但... 御... 目... 象

進 御... 府... 南... 間... 膳... 以... 皇... 父... 主... 上... 上... 按... 五... 去... 五... 給  
... 後... 退... 惟... 孫... 廟... 主... 上... 御... 覽... 去... 五... 後... 令  
... 孟... 御... 前... 御... 以... 宗... 雅... 孟... 杖... 右... 膳... 以... 右... 上... 為  
... 進... 行... 上... 本... 不... 結... 中... 取... 加... 杖... 退... 入... 以... 予... 拂... 文  
... 杖... 右... 年... 中... 約... 子... 東... 南... 但... 目... 祭... 進... 繩... 東... 自  
... 御... 府... 南... 間... 中... 央... 膳... 以... 祭... 進... 儀... 如... 初... 主... 上... 上...  
... 按... 五... 文... 給... 後... 送... 以... 儀... 本... 不... 御... 向... 乾... 御... 覽... 了  
... 令... 退... 以... 次... 主... 杖... 右... 上... 子... 案... 之... 乃... 送  
... 以... 上... 本... 不... 結... 中... 以... 五... 加... 杖... 退... 出... 以... 主... 上... 入

御次左中并下者出上卿  
奏明以恭先之覽上心  
而予覽之臨示國于中象

次退也

年號事

治建

周禮曰以治建國之學政

仁應

小齊書曰舉世思治則仁以應二

元應

唐書曰陛下富教安人務農敦  
本光復禮讓康濟黎元三應之

延嘉

晉書曰會司儀於有始也延嘉賓

正安

晉書曰居正安其身

前權中納言藤原朝臣經光

勅申年號事

延慶

後漢書曰本文武之業擬堯舜  
道接災延慶号命天下

仁寶

晋中興書曰四室賓服則金滕見  
金滕者仁寶也

右依

宣旨勅申如件

式部大補系胡片光善

勅申

年號事

正元

毛詩傳云一如正元萬載相傳註云言  
本正則未理

觀仁

尚書大傳云五誥可以觀仁

萬長

御覽云民稱萬歲長

右依 宣旨勘申如件

康元 年三月十日從位行武都權補並滿後權守常原朝長

勘申

年號事

寬正

史記曰寬以正可以比衆

建治

唐紀曰明王建邦治民經世變化

正嘉

藝文類聚曰双聿元正之嘉會

右依 宣旨勘申如件

康元二年三月十日從位行文章博兼越後及管原朝在章

勘申年號事

文永

後漢書昌漢四百有六載統武興文永  
惟初宗二洪業思火元双口于萬嗣

應曆

宋書正義曰昔正保衡佐我烈祖格于  
皇天

安延

禮記正義曰武王承文王之業故安樂  
延年

改和

毛詩曰治世之音安以樂其改和

右依 宣旨 勅申 加件

文章博士大江朝臣信房

十五日辛丑土收

除午申

大歲前市日遊在內

天晴參院密之御幸北山事仍退出

十六日 天晴風烈今日各院言勝陀羅尼供養

之權并資定胡后奉納御道寺師青蓮院

官令系勤給先是奏案

改元以後改日次事

稻荷系使子

座之宮被申八王子三宮未作事

高俊申矢根出兩座場實檢事

大原院僧正申武庫

大唐院

大原禪衆申周七以回事

一乘院禪師申伊与座事

師光胡長申大庭表一以雜多事

安木國率分事

行經申土仲庄下月職事

作...

正嘉元年三月十六日資宣 奏

鴨社申銀花事

作...

正八幡宮造り了

作評定之時の中事

九条三位入道申儀絳座事

作評定之時の中事

賀正平朝長申内茲寮史生了

作他例の如く由り作

同申大江御厨了

作子の作を武家

隼人目申佐伯座事

作四注の如く由り作難考の中事也此の作中納言

公命法平申河事

作或玉宣上志高尉定由り有遠礼乞不り及院宣

資緒申水主社神主職事

作子の作を園本

氣比社事

作官者罷科者何不被罰罷り又及左右

出願不便宛六件景祝者乞り被り直之使

式部權大輔申御書事

作五帝本記早可直り後日有被返直り由り申御書

天香子年表後段

十六日癸卯金因大...

十六日壬寅 奎開

除事足甲

大歳前厭對血忌

依婚去  
日遊在丙



十七日癸卯金閉大吏言大歲前 別以若 日遊在內

天晴御幸澆泚殿

御幸澆泚殿事

十八日申辰火

陰錯

今日不出仕

十九日乙巳火除大歲前毋倉重 拜嘗者 日遊在內

天晴不出仕

廿日丙午水滿

大歲後小歲位母舍出初者日遊在內

天晴今日石清水臨時祭也中將奉行之

石清水臨時祭之事

廿一日丁未水平

大歲後小歲月納賦者日遊在內

天晴春龜山波養系之事昨日臨時祭系人古夫

龜山波養系

將監家棟お植丸橋造被致害之事自開白飯令

時祭系人家棟被致害之事

給于外人之事此勢守食古志之事軍事有疑之事仁乞

可和為之事由能作下退之事後下皮遺之事相尋之事

干仁以完語不領之事於論理因之之事為預人若皮取之事而疑

只是之之事お植丸橋造士古人待法之事自左右之事言川

為慮以致實之事侍人司射教二人被致之事由中之事之事

於中之事者之之事根籍 于 志乞此中之事說誠之事做了

三嘉元年三月廿一日

奏事

左府直

事

作是月日古執筆自上篇可和催

稻荷祭使事

作相別官の差定刑了五郎

右府申 藥王丸申

内切田百姓被殺害事

作の作を申る作相國

落原宿申 還覚遺事

作の申座主

以郎胡片申 導念遺事

作の下成後

尤京大夫 高申 淨蓮祈了

作の文不詳也

保直胡片申 出仕事

作の免

祭使 櫛事

作頼澄よりおるは家

評定事

作の末月一は家事の系申る作

廿二日戌申 出定 下 孤辰復厭 日遊在心

天晴百章職章程打尋 御隨為頼澄總急利遺事

百章職章程尋 相尋頼澄服了

如實子孫而除服後之事 而相尋祭使櫛事有憚り

おれ子 志又必之の者憚り者申被隨總急利の奉子

五ヶ月從神事 系之の有憚り又家棟事 榎杵橋迄

家棟致害事百在地人にお尋下知章職了

自畫招待 由有る同食皮在仕事 御使隨の究也下知

此作下 章職 志は山城國內 押使章職

下下知 又御大望了 供送を為成出於お交すに宛也

廿二日巳酉 土執 沐浴 御轟大歳及天 无翹復 初礼志

兩降不出仕 以章職申 伏候誠服了

家棟事以章職申伏候誠服了

廿四日庚戌金破

日未卯可一分

大歲後天

九坎 藤菴十七

兩海今日大納言二不送修結願也向仙園考乞先乞有御

幸先懺法者引物次公卿深中納言大德持平宰相等著

堂前土座予加著座末道守師僧都賜布施物十重以錦

累十加布施物金十兩色門委不見及傳雨召子依在茶安

一德齋齋 加一

廿五日辛丑金危 減

大歲後天

天晴陰今日還御

廿六日壬子木成

去用事 沐浴

大歲前天

歸忌 初祀十七

天晴泰陰御 幸富小路淑明日政始上卿少納

御幸富小路少納言

催促一次参内 以向菅三位 清長の御参り申

明日

上心納一事

如右程に加増候事

炎上一る時服未相儲一申稱一然るに明後日

向菅三位許に納り清長の御参り申作合す

可参一申一延引一

除年中

種蒔者

廿七日癸丑 本收 大歳前天

廿六日

天晴参内 田沼院官御参 茵城寺衆徒依戒壇事拜起今日

参内

可参一申一申一延引一此上志作武家者皮使志一

田沼院官令参候事

衣止一申一給一予一为一御使向相國許一作武家一申一相玉被申

今申國城寺衆徒申給

云一今武家使入未即一石作一交賜院宣一申一海参申

此申一書一申一延引一只一加制止一也一戒壇事被不

延載

廿七日 雨降 参内 田沼院官御参 茵城寺衆徒

参内

今明参内 離寺一武家使申一不向一也一申一若凡不拘

田沼院官令参候事

制止一此上若一從一臨一不一引一也一僧徒一申一作合一子細一

盡一海法一後一作一申一東一申一衆一可一合一申一也一申一下一

僧徒一申一也一申一向一法一長一信一實一申一也一申一宣一与一申一

給一予一申一也一申一實一化一申一也一申一人一只一申一也一申一

頂一長一信一法一申一衆一上一参一申一也一申一茵城

寺衆徒離寺一申一也一

如右程に申候事

楚忽離寺一申一也一

如右程に申候事

申云今胡離寺中承是戒壇新証此寺者  
代々新証然許可隨時延久後三條院新  
證皇告文時振給ん末第乞由証載  
核証不知新証然而長子文不令云差  
狀給る此上志有何面目存小由海分教  
由承中實伊法有打徒者上被作下云每人  
早入寺衆徒離寺事去年此衆徒蜂起由  
證者之因之加制心之被作同滿院宮取護院  
僧心了而之於興盛刻離寺由有之因由徒

何事亦如明者依戒壇事及此入之此長曆  
其證者之新証而對之容易長寬以後物以  
不及新証之地忽之新証已及離寺未不證同倉  
也若又有存知之方ん凡新証之所之中ん  
凡當代お當ち之所當宗實化院而自其之念恨  
事之上志之所新証天長地久之事未勝其出罪  
據新忽離寺未不德便之歸位之遂仍佛之  
之由之倉作之之所之所之所之所之所之所  
可集向他衆徒已離寺由有之之所之所之所之所之所

隨新出遊如承之當時離去也皆情若長事不實也

或托下信總の書也合後之言有

其用

可奉仕由定也ん作拓之意也

あふ

取辱ん。申。以此又卷開

執定之長文字

奉仕定有不知ん以

を奉仕許可休誓新志とて之を奈何の子有

稱を奉仕許の致新証とて之を也 且延曆寺

院を奉仕定誓新ん 隨衆後申状のお申。由

作下此木子細於右条因滿院并 聖護院僧正可

申入ん。方家作下長後法下。中。僧正。申。の

之ん明。院申。不知。道。新。三。新。向。宣。ん

作云。院。志。又。申。可。入。寺。此。方。之。僧。正。兼。也。申。之。事。也

お申。由。被。作。下。以。足。出。及。作。更。自。因。滿。院。宗。以。實。伊

為。御。使。被。作。下。此。間。子。被。申。入。可。聖。護。院。僧。正。兼。也

可。宣。ん。遮。有。以。身。被。申。也。而。長。後。申。之。細。三。僧

經。寺。院。明。夕。可。明。院。先。の。被。を。長。後。お。聖。護。院

弟。寺。院。所。長。官。可。被。を。由。申。由。法。申。海。共。院

本月。而。有。昔。宣。月。三。百。日。相。續。也。同。月。不。有

難くは白波作りし此由は其長中へ勅定より  
可く其後お長谷に言波作下り此由は向僧徳未  
波を長後法王お長谷より

廿八日雨降る能長後法王自長谷御音 傍正

と返り申し白地御音富小波後内より御音

と申す衆 可く言 被作下りる衆富故其養

長信守長信守云衆徒より勅定并三陸加制

止事より難事より申す但お門徒より被作信守

衆の言に申被申し此おり内より可く御言

可入事より申す作信守申云衆内被作報定得

お語云今夜難事あり巨養状に故に山詣山依を

養状に止捧起し事あり及その山詣衆徒信守

進信守に言し衆行より可く養状に者定久

と御信守御信後開東へ被作事より衆の巨ん

御言に聞 御言し衆の容易に申被申し御言

衆作の内より可く此子御言を養状に今より

可御信を養状御信如佛より御言し衆の被

衆富故其養

衆徒より勅定

衆の言に申

可入事より

お語云今夜

養状に止捧

進信守に言

と御信守御

御言に聞

衆作の内

可御信を



多し与彼作下 此中作僧總等ののり此中

廿九日 雨降各院園地を所使僧總末詢等より云

各院園地を所使僧總末詢等より云

去夕兼燭し御下总上學以お尋難と兼し子

二人お孩作 隨使と高寺より云く被下如張

時自此前 悔出れ 孩當但ふの奉出遊人衆徒

分敷 時有申を云く与戒壇より自去曆以來

連し新依法各の依道

臨了

長吏此依云此上と有 何而目か若自去吏若自云

家有御供志る進此奉仕し由り云く教臨傳

作勅定教子細定回前云く由り云く何勅定云く

然し作殘當し兼し志る奉仕し由り云く勅定云く長

吏云く自定と斗し概 云く上僧總し由り云く然し然し

衆徒由り然し佛了り者隨し概の由り云く也返添

問學以等 向孩當し兼し但評定し云く前論高時難

寺志奉仕於道し由り僧總等より被し与奉仕

し由り由り自々自評の然し由り云く何自定云

正始佛子... 間持素素狀... 勅定依  
之羞狀... 兼取神妙用... 說... 下  
以僧經等... 退書

七百... 直物... 大臣... 勅前... 有任  
人... 傳... 取... 下... 治... 作... 任... 人... 由... 治... 取... 下... 山... 名...  
予... 於... 德... 衆... の... 以... 爲... 深... 兩... 也... 後... 懸... 一... 上... 下... 早... 衆... 也... 取  
山... 同... 好... 之... 之... 兼... 燭... 後... 有... 以... 衆... 衆... 之... 若... 端  
所... 行... 在... 於... 記... 之... 勅... 文... 直... 物... 子... 爲... 晉... 之... 善... 一... 同... 志  
傳... 牙... 御... 兼... 用... 上... 心... 就... 予... 賜... 善... 勅... 文... 以... 爲... 返... 下

次上... 勅... 者... 先... 是... 左... 宰... 和... 中... 將... 實爲 右... 衛... 將... 爲武  
君... 使... 座... 爲... 宰... 和... 親... 賴... 近... 加... 者... 於... 南... 門... 皆... 似... 狀... 也... 也  
修... 治... 不... 兼... 仍... 細... 之... 不... 左... 宰... 和... 中... 將... 隨...  
上... 卿... 自... 衆... 也... 勅... 文... 復... 座... 爲... 宰... 和... 右... 外... 記... 右... 規... 下  
右... 宰... 和... 中... 將... 下... 夕... 次... 還... 爲... 取... 下... 卿... 中... 文... 建... 長... 元... 年... 而... 任... 三...  
右... 宰... 和... 中... 將... 之... 名... 君... 也... 次... 還... 爲... 取... 下... 卿... 中... 文... 建... 長... 元... 年... 而... 任... 三...  
被... 取... 皮... 下... 名... 之... 交... 使... 年... 下... 名... 換... 也... 申... 師... 意...  
定... 和... 矣... 上... 之... 時... 若... 燒... 矣... 乞... 也... 不... 任... 之... 被... 海... 國... 誓... 不...

上但兼方係之次予下加但折紙隨下中又終之  
物中又且又為子速取上心就可場也兼下者并  
就情自治一返下上心物者下者後議之者在上心  
前就去年下名 之上下等之勢 就下名者後持物  
以上心 正外記 爲二者各各三夜如常式初並系  
賜下名退入叙位 正内記中一 次上心以下退出

*(Faint bleed-through text from the reverse side)*

神祇權大副大中片 隆蔭

權少副同高宣

權少外記法系俊隆

伴定原基定

藤系經武

少監物化直

中宮權大左及俊國

左善允及

曰 忠景

同高經 功

民部丞及成光 鴨川合社 送管切

主稅助中系師隆

刑部丞及宗氏 仁壽殿 觀音佛名切

同時威

同改代

大藏兼伴為連

宮内丞平景直

木上允及時親

源行威

修經亮多範方

貞守多宗朝

肥前權守多能親

權少將多基方

近權少將多隆保

左衛門尉藤賴春

石上景時 如寺切

月景總 去年八月大災 祭切

丹后守同賴景

豐前守多兼朝

左近衛權中將多基輔

將監中示以景

將監中示能信 仁壽殿觀音 佛名切

源光 內藏寮切

多景親

月重定 鴨川合社 造學切

同政經 日切

源信基

右惠尉唯宗則繼 長講堂 築垣切

多重有 日切

同義定 丹生社金物切

平久成 日切

尤兵衛權仇平忠世

尉源康範

平清妙 長海堂 築垣切

多有近 切

源高五 同熱死籠屋國 但

尤馬允多助成 長講堂 築垣切

右馬權助多光保

正嘉元年三月廿九日

五位下惟宗文元

安部時茂

正五位下 多實顯  
從五位下 多業氏  
從五位下 多賴景

同宗朝

中原師澄

使 宣旨

左馬少志 中平章 為

惟宗 尚高

後三月

一日 天晴春佳 山門衆徒使別名而相送 而波

多實山門衆徒使別名

作下 而 中 心 逢 一 使 一 園 城 寺 衆 徒 依 戒 壇 之 中

釋 起 之 音 雜 音 一 也 有 一 間 而 間 眉 曲 寺 一 也 風 間

凡 長 曆 明 言 僧 心 長 吏 時 隨 有 此 所 祈 祈 經 師 法 被

偏 止 其 後 延 久 承 一 等 隨 祈 申 門 心 法 可 法 以

交 一 自 由 祈 祈 志 心 奇 怪 聖 斷 亦 加 增 志 直

一 加 四 封 凡 園 城 寺 士 學 志 天 台 一 流 士 受 志 東

大 寺 一 戒 也 彼 宗 隨 不 從 一 不 可 十 事 廟 之 一 一

園城寺傳

以依お希代祈禱の故者

方聖勅若山の末面目の衆徒等一同

申し由奉し且各御前奉聞勅定し去年此

園城寺衆徒依戒壇の時起し由有之聞し其後

中田滿徳宮所護持傳中し其時有之説不定

信受し由有し其先の由也也了 摩王了

名離寺し由有之其由也其傍總被召し其戒壇

の能新中し長吏の由を奉持し其記否先の在聖

勅書仕持たむし其由衆徒合誓祈ふ故

然るに傳傳し由中し其間意在し其思念別及裁許

長唐の後何伝し其由も其由も其由も其由も

寺此勅許し其の推おんは其山の何の時

起其早令其其の祈天也也其由も其由も

衆徒使奉作是出

今の波引評定言法家し其加地其口も其由

ありし其由も其由も其由も其由も其由も

傾乃其其其其其其其其其其其其其其其其

仕其其其其其其其其其其其其其其其其其

如法其其其其其其其其其其其其其其其其其

早の波儲子君又取尋

一加比庄事

讓養女之戚可悔返る者之取助状不同名

の年也

章職章程明威章意申云養実姓之男

の時波改回一法十増律如不咄云云養

女同安貝子一悔返し申

章國申云云の娘安貝子養子一讓一戚

之も罪之外之の悔返

章際申云云養父母と親同然る波取謝の時

親父母十一月也養父母云五月之有悖

多し毛上返り要略父讓子一讓養子子死

後祖母欲悔返の時養子一の願知

裁し之有れを乞へ申しおは金持志ふ

う法後志之實戚一後養子傳取ふ似此儀

智

一伊基別片と性惠お海口ふ田一取事

者申云伊成心 初雖讓伊基后悔

伊基不<sub>レ</sub>起<sub>レ</sub>祈<sub>レ</sub>法<sub>不</sub>者告<sub>テ</sub>故<sub>ニ</sub>  
伊成<sub>レ</sub>母<sub>ノ</sub>悔伊基<sub>レ</sub>由<sub>レ</sub>臨<sub>レ</sub>中<sub>レ</sub>志<sub>レ</sub>子<sub>レ</sub>志<sub>レ</sub>  
定<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>讓伊成<sub>レ</sub>上<sub>レ</sub>伊成<sub>レ</sub>父<sub>レ</sub>命伊成背<sub>レ</sub>母  
命<sub>レ</sub>志<sub>レ</sub>教<sub>レ</sub>令<sub>レ</sub>違<sub>レ</sub>犯<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>二年伊基告<sub>テ</sub>父<sub>レ</sub>志<sub>レ</sub>絞  
也<sub>レ</sub>臨<sub>レ</sub>背<sub>レ</sub>母<sub>レ</sub>命<sub>レ</sub>者<sub>レ</sub>惟<sub>レ</sub>重<sub>レ</sub>志<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>伊基<sub>レ</sub>士<sub>レ</sub>中<sub>レ</sub>不  
可<sub>レ</sub>道理<sub>レ</sub>也<sub>レ</sub>者<sub>レ</sub>

上<sub>レ</sub>會<sub>レ</sub>出<sub>レ</sub>御<sub>レ</sub>依<sub>レ</sub>百<sub>レ</sub>御<sub>レ</sub>前<sub>レ</sub>法<sub>レ</sub>家<sub>レ</sub>軍<sub>レ</sub>尋<sub>レ</sub>寃<sub>レ</sub>飲  
由<sub>レ</sub>新<sub>レ</sub>御<sub>レ</sub>下<sub>レ</sub>尋<sub>レ</sub>由<sub>レ</sub>由<sub>レ</sub>由<sub>レ</sub>次<sub>レ</sub>出<sub>レ</sub>御<sub>レ</sub>評<sub>レ</sub>定<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>若  
府<sub>レ</sub>系<sub>レ</sub>大<sub>レ</sub>統<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>民<sub>レ</sub>怨<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>劫<sub>レ</sub>解<sub>レ</sub>由<sub>レ</sub>中<sub>レ</sub>御<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>婦<sub>レ</sub>小<sub>レ</sub>孫<sub>レ</sub>孫<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>孫<sub>レ</sub>

- 一 在<sub>レ</sub>子<sub>レ</sub>法<sub>レ</sub>家<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>狀<sub>レ</sub>卷<sub>レ</sub>開<sub>レ</sub>評<sub>レ</sub>定<sub>レ</sub>叛<sub>レ</sub>在<sub>レ</sub>右<sub>レ</sub>口  
多<sub>レ</sub>甲<sub>レ</sub>兵<sub>レ</sub>子<sub>レ</sub> 甲<sub>レ</sub>兵<sub>レ</sub>子<sub>レ</sub> 甲<sub>レ</sub>兵<sub>レ</sub>子<sub>レ</sub> 甲<sub>レ</sub>兵<sub>レ</sub>子<sub>レ</sub> 甲<sub>レ</sub>兵<sub>レ</sub>子<sub>レ</sub>  
可<sub>レ</sub>得<sub>レ</sub>下<sub>レ</sub>礼<sub>レ</sub>福<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>由<sub>レ</sub>臨<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>由<sub>レ</sub>法<sub>レ</sub>法<sub>レ</sub>家<sub>レ</sub>軍<sub>レ</sub>女<sub>レ</sub>氏  
甲<sub>レ</sub>兵<sub>レ</sub>子<sub>レ</sub> 甲<sub>レ</sub>兵<sub>レ</sub>子<sub>レ</sub> 甲<sub>レ</sub>兵<sub>レ</sub>子<sub>レ</sub> 甲<sub>レ</sub>兵<sub>レ</sub>子<sub>レ</sub> 甲<sub>レ</sub>兵<sub>レ</sub>子<sub>レ</sub>  
一 家<sub>レ</sub>定<sub>レ</sub>御<sub>レ</sub>上<sub>レ</sub>宗<sub>レ</sub>經<sub>レ</sub>胡<sub>レ</sub>長<sub>レ</sub>相<sub>レ</sub>論<sub>レ</sub>越<sub>レ</sub>後<sub>レ</sub>加<sub>レ</sub>地<sub>レ</sub>兵<sub>レ</sub>子<sub>レ</sub>  
人<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>云<sub>レ</sub>懷<sub>レ</sub>卷<sub>レ</sub>如<sub>レ</sub>賊<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>悔<sub>レ</sub>返<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>若<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>由<sub>レ</sub>法<sub>レ</sub>家<sub>レ</sub>  
一 軍<sub>レ</sub>上<sub>レ</sub>狀<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>回<sub>レ</sub>上<sub>レ</sub>家<sub>レ</sub>定<sub>レ</sub>御<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>進<sub>レ</sub>父<sub>レ</sub>候  
此<sub>レ</sub>終<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>至<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub> 之<sub>レ</sub>由<sub>レ</sub>法<sub>レ</sub>家<sub>レ</sub> 之<sub>レ</sub>由<sub>レ</sub>法<sub>レ</sub>家<sub>レ</sub>  
一 檢<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>御<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>子<sub>レ</sub>難<sub>レ</sub>平<sub>レ</sub>胡<sub>レ</sub>長<sub>レ</sub>相<sub>レ</sub>論<sub>レ</sub>誘<sub>レ</sub>示<sub>レ</sub>



人之家信之状。置右府申載。可  
如尋相國

一 孫原氏文道融法旨。如論備法。國法。毗在事  
今申云。多系氏不。多。非。這。為。讓。出。言。越。不  
詳。道。融。法。旨。不。帶。說。文。之。中。亦。之。須。不。融。文  
僧。正。如。傳。孫。融。下。文。之。下。分。明。之。道。融。不  
申。可。道。理。但。道。融。不。之。文。事。內。申。運  
局。依。文。傳。此。狀。被。上。上。志。生。非。字。而。載。之  
此。其。不。審。一。被。尋。家。之。

系化人

右大臣

如系大納言

民部卿

勅為中納言

攝政中納言

經傳

二日丁巳土陳

大藏後重

拜官去

天晴春院今日山宗德院強盜官人章繼後  
出雲守強盜官人章繼後  
為卿見如審之卿幸何足出也之見物之

三戌年火

日出卯 初五分 丑五十四日拜宮去  
大歳後母愈復 日遊在丙  
日入酉三十三分 夜四十六分

天晴

自今日七日前有山系勢賀夜夜出

累大納言中宮殿同子并山系勢賀夜夜出

四日己未火平

大歳後月敏 裁衣 日遊在丙

天晴不出仕

五日庚申木定没

陰錯疏辰厭

天晴 各内次系御留守 御下

各内次

六日辛酉木執鳴鳩拂其羽 大歲元翹佳已解除去  
沐浴 今日向和國許 傍示除手足甲 子是 子合西方共祀其謂  
和國降 不論 在聖 申

大歲元翹佳已

日三未火年 大歲元翹佳已

七日壬戌水破

辟矢大歲後九物

療病志

山門衆徒於起欲奉動神與三由守

代

今更不可有動許 由為婦也

院宣

八日癸亥水

上法

絕陰重

天晴衆乃次向和國許 傍示立子示合南方共祀其謂

不證可在 重斷

不證  
以向二二以系御道御本

九日甲子金成絕陰歸忌

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '九日', '甲子', and '金成'.*

十日乙丑金收

絕陰

天晴今日從自警夜還御也御後各任各養  
自警夜還御

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '十日', '乙丑', and '金收'.*

十一日丙寅火開

絕陰厭對血忌

天晴冬陰

天晴春德先是... 十日... 十日... 十日...

十二日丁卯火閉

日出卯初三分

且辛卯

絶陰

日入酉三十分

夜四十分

天晴春德先是有... 仲實入道... 羅大納... 有家等良久之... 天有...

十日... 十日...

十日...



